

## 「農業・農村関係人口創出 の取組事例(奈良)」

近畿農政局（奈良県拠点）では、農村と都市の交流を深め、農業・農村に関心を持つ人口を増やす取組を行っている団体等を、ウェブサイトや市民が集うイベント等で広く紹介しています。今回の「消費者の部屋」局外展示では、奈良市内の取組事例をご紹介します。

- 畑ヘルパー倶楽部®
- 田原アグリサポート協議会

農業・農村に関心を持つことから始めませんか！  
「農業・農村関係人口創出の取組」  
近畿農政局奈良県拠点ウェブサイト



期間：令和8年3月16日(月)～3月27日(金) 9時～17時  
(土・日・祝日を除きます。初日は13時から、最終日は正午までとなります。)

場所：奈良市役所「連絡通路」

奈良市二条大路南一丁目1-1  
近鉄新大宮駅(南口)西へ徒歩約700m  
近鉄奈良駅、JR奈良駅から奈良交通バス「奈良市庁前」下車



### 【お問合せ先】

近畿農政局 奈良県拠点  
(展示内容について)  
Tel.0742-32-1870 (代)

近畿農政局  
消費・安全部 消費生活課  
(消費者の部屋について)  
Tel.075-414-9771

農林水産省  
近畿農政局



# 「農業・農村関係人口 創出の取組事例 (奈良)」

展示期間

令和8年3月16日(月)

～ 3月27日(金)

展示場所

奈良市役所 1階「連絡通路」

※詳しくは近畿農政局ホームページをご覧ください。

# 近畿農政局

## 「農村関係人口拡大プロジェクト」

近畿農政局では、「農村関係人口拡大プロジェクト」を立ち上げ、都市部にいながら農村への関心や関わりを持つ農村関係人口創出の取組を推進しています。

棚田、農業遺産等の歴史的・文化的背景、景観等を含む農業の持つ多面的機能に関する情報発信や体験等を通じて農村のファンとも言うべき「農村関心層」を拡大することとしています。

### 奈良県拠点では農業・農村関係人口創出の取組を紹介しています

奈良県拠点では、農業・農村に関わる関係人口の創出に向け、農村と都市との交流を深め、農業・農村に関心のある人口を増やす取組を行っている団体等をウェブサイトで紹介し、農村の魅力を発信しています。



畑ヘルパー倶楽部® (奈良市)



田原アグリサポート協議会 (奈良市)



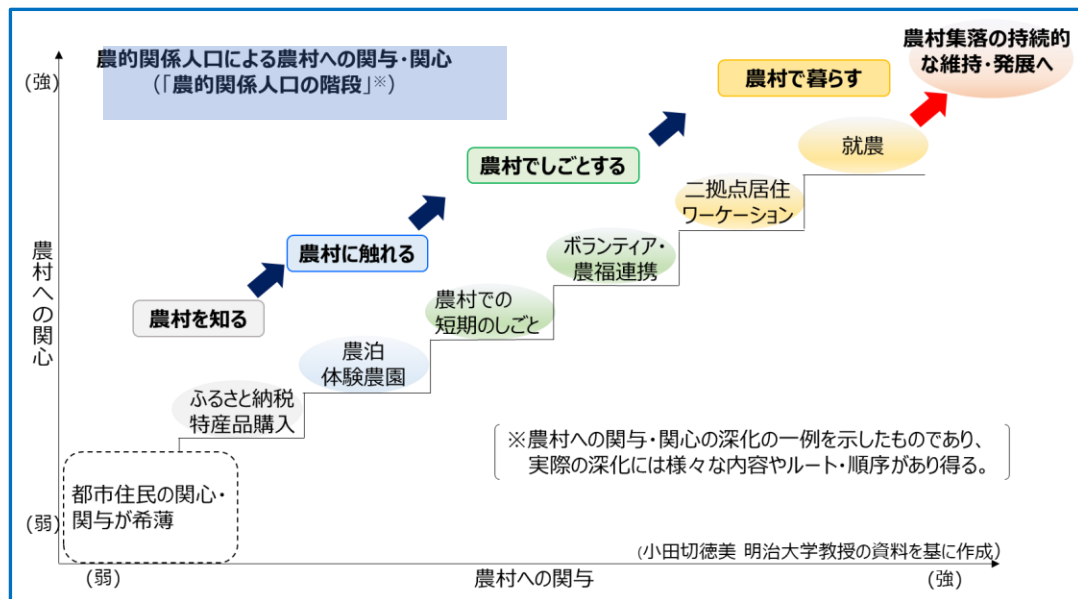
おおいわ結の里 (大淀町)

「農業・農村関係人口創出の取組」奈良県拠点ウェブサイト  
<https://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/nara/jirei/jirei01.html>



### 農業・農村に関心をもつことから始めませんか

農村関係人口については、都市部にいながら農村に関わる形から、農村での仕事への関わりや継続的な農村への訪問を経て、実際に生活の拠点を農村に移す形に至るまで、徐々に段階を追って農村への関わりを深めていくことで、農村の新たな担い手へとスムーズに発展していくことが想定されます。



「農村関係人口について」農林水産省ウェブサイト  
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/231221.html>



# 畑ヘルパーで農家を元気にし、 地域交流の場を広げる

～ 畑ヘルパー倶楽部 ～（奈良市）

令和7年9月

## 畑ヘルパーで農家を元気にしたい

「畑ヘルパー倶楽部®」代表の見掛加奈氏は、農家の現状を知り、農家を元気にしたいという思いから、2016年、農作業を手伝うボランティアグループ「畑ヘルパー倶楽部」を設立しました。

同倶楽部は、人手不足に悩む農家と農作業を手伝いたい人（畑ヘルパー®）をつなぐ仕組みづくりとその運営等を行っており、畑ヘルパーの年齢層は10代～80代で登録者数は約190名、農家数は11軒で、延べ農作業手伝い回数が70回以上になる月もあります（令和7年8月現在）。



畑ヘルパーと受入農家（右）のみなさん

## 農作業を手伝ってお礼に農産物をいただく「三方良し」のソーシャルビジネス

活動のポリシーは「農家をヘルプする」ことで、農家に負担がかからないようにルールを決めて、お互いが気持ちよく作業できるように心がけています。

農作業を手伝ったお礼として新鮮な農産物をいただく「畑ヘルパー」、人手不足が解消され、金銭的な負担も少なくなる「受入農家」、そして、畑ヘルパーの斡旋料として農家からいただいた農産物をマルシェで販売して経費を賄う「畑ヘルパー倶楽部」、「三方良し」のソーシャルビジネスを展開することで持続可能な取組になっています。



籾蒔き作業の様子

### 援農に留まらない活動の広がり

取組当初は農作業の手伝いのみでしたが、活動するにつれて餅つきなど農村の暮らしを体験する機会も増え、畑ヘルパーだけでなく受入農家も元気になり交流も深まりました。

近年は、料理教室や婚活イベント、交流会の開催、学生による食育活動などにも取り組んでいます。

## 「農泊」で農村の魅力を発信し、市街地から人を呼び込む

農作業や農村での体験が心身ともにリフレッシュでき、ストレスの軽減などの効果もあったことから、新たな取組として奈良市田原地区で古民家を改修し「農泊」を計画しています。畑ヘルパーとして農作業を手伝うほか、地区内の工房や醸造所で体験などを楽しむことができます。

市街地から人を呼び込み、農村の魅力を発信し、農業・食料に対する関心を高めることで、農村と都市の交流が広がり地域全体が元気になることが期待されています。



古民家改修作業の様子

畑ヘルパー倶楽部 <https://nglnara.xsrv.jp/>（外部リンク）  
【問合せ先】 Email:ngl.letter★gmail.com

お問い合わせの際は、上記メールアドレスの★を@に置き換えてください。

# キウイフルーツで地域外の人たちと ともにつくる「田原地区」

～ 田原アグリサポート協議会 ～ (奈良市)

令和8年1月

## 新たな特産品の開発へ

奈良市中心部に近く、住民の多くが兼業農家や非農家である奈良市田原地区では、人口減少や少子高齢化の影響で、耕作放棄地の増加が大きな問題となっています。

この問題を解決するため同地区では、農業所得の向上と耕作放棄地の解消を目標に、「奈良市元気なら農業活性化プロジェクト」を令和4年度から開始しました。

数ある活動の中でも力を入れたのは、耕作放棄地で鳥獣被害の少ない果樹であるキウイフルーツの試験栽培で、現在は90aまで拡大しています。そして、この取組は令和7年度から田原アグリサポート協議会が引継いでいます。



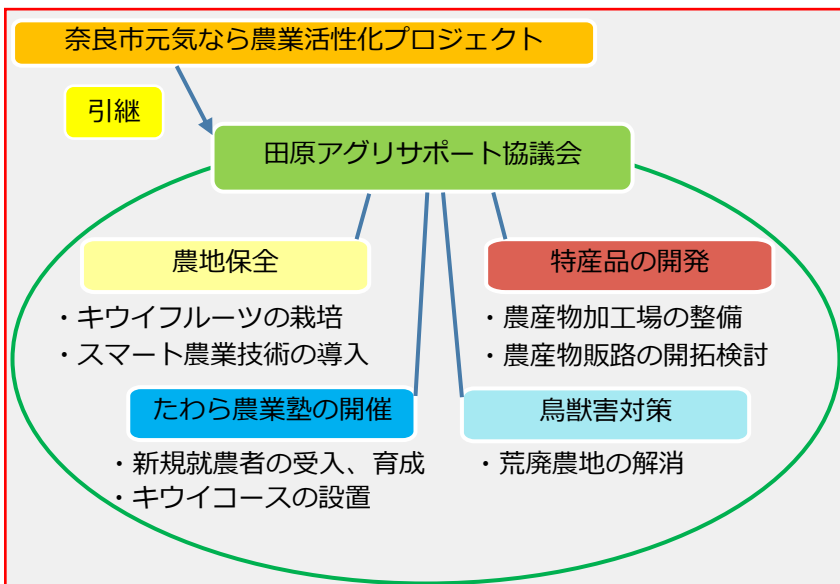
キウイフルーツ植え付けイベント

## 農業者以外も巻き込んでキウイフルーツに挑戦

これまで栽培したことのないキウイフルーツの栽培にあたり、苗木の植え付けを行う際にはイベントを企画し、地域外の人たちへも参加を呼び掛けることで田原地区に関心を持ってもらうことに繋がり、これまで実施した植え付けイベントでは、同地区内外から延べ230名の参加がありました。植え付けたキウイフルーツの収穫が令和7年度から始まり、今後は年々収穫量が増加していく見込みとなっています。



初収穫を迎えたキウイフルーツ



## 新たな産地づくりを目指す

田原地区内で更なるキウイフルーツの拡大を図るため、同協議会では、令和7年度から同地区内で水稲や野菜等の栽培に取り組みたい方を対象とした「たわら農業塾」の中にキウイフルーツコースも設置しました。

令和7年度は4組5名の受講者がキウイフルーツ栽培に取り組んでおり、今後は同地区のキウイフルーツの栽培による新規就農者の獲得に伴い、キウイフルーツが新たな特産品になることが期待されます。



「たわら農業塾」で学ぶ受講者

【問合せ先】 田原アグリサポート協議会  
<https://naratawara.jp/> (外部リンク)



# 官民連携の取組により、持続可能な循環型の里山暮らしの実現を目指す

～大和高原「福住村」プロジェクト～（天理市）

令和7年12月

## 官民連携による地域課題解消へ

天理市の高原地域では、市の都市部と比べ人口減少や少子高齢化が進展しており、農業の後継者不足による耕作放棄地の拡大、空き家の増加などの地域課題が顕在化しています。

こうした地域課題の解決に向け、「天理市オーガニックビレッジ宣言」に基づくこの地域を中心とした有機農業の推進を核とし、環境や教育連携、移住定住促進等の各分野において、「持続可能な循環型の里山暮らしの実現」を目指すプロジェクトを地域住民と官民連携により推進しています。



天理市オーガニックビレッジ宣言

## 地域資源の新たな価値を創出する「福住村」プロジェクト

### ●耕作放棄茶畑再生プロジェクト

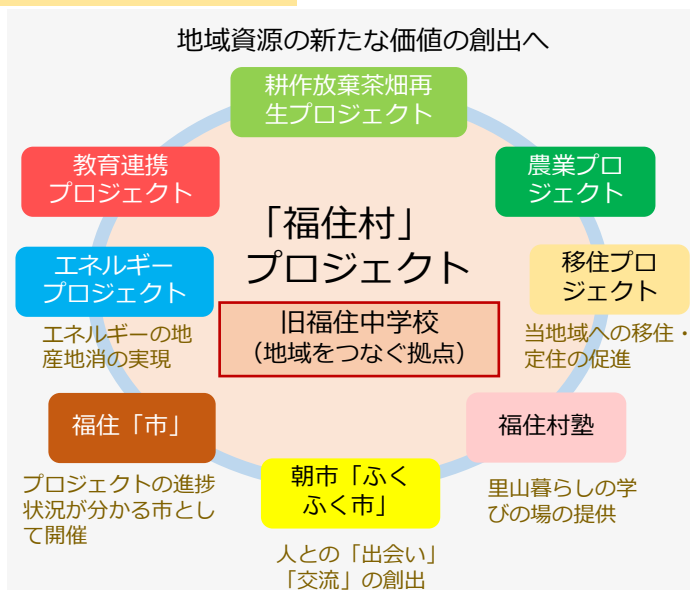
かつてお茶の産地であった福住地域に残る耕作放棄茶畑を農薬・化学肥料のめけた地域資源と再評価し、放棄茶畑の茶の木も葉も全てを原料として使用する「里山三年晩茶」の生産に取り組んでいます。

### ●農業プロジェクト

付加価値の高い商品作物づくりを目指し、さつまいもや大和ルージュ（赤いスイートコーン）等の有機栽培に地域の農家が果敢に挑戦しています。

### ●教育連携プロジェクト

福住小中学校では、有機の米づくりや里山三年晩茶のパッケージづくりなど、授業の中で「福住村」プロジェクトと連動した活動を実施することで、子どもたちも地域づくりに参加しています。



## 「福住村」プロジェクトの更なる推進に向けて～農村型RMOの始動～

地域課題の解決に向け、農業を中心に様々な分野で活動を続けてきた「福住村」プロジェクトは、「天理市オーガニックビレッジ宣言」による施策と連携しながら、農村型RMO（地域運営組織）である「福の住む里協議会」の設立という次のステージへ進んでいます。

今後は、地域住民を主体とする「福の住む里協議会」を中心に、官民様々なステークホルダーが連携し、「持続可能な循環型の里山暮らしの実現」に向けた地域再生の取組を継続・発展させていきます。



耕作放棄茶畑の再生



大和ルージュの収穫作業

「大和高原『福住村』プロジェクト」

<https://www.tenrifukusumi.com>（外部リンク）

【問合せ先】天理市環境経済部農林課

電話：0743-63-1001（内線：241）

# 地域外の力を借りて 存続するコミュニティ

～ 特定非営利活動法人 おおいわ結の里 ～ (大淀町) 令和7年12月

## 地域存続のために

山あいにある吉野郡大淀町大岩地区は、地域の担い手不足が深刻な状態となっており、地域外の人を受け入れる「新たな仕組みづくり」として、2021年「特定非営利活動法人おおいわ結の里」を設立しました。同法人には大岩地区の住民の全員が参加するとともに、地域外で暮らす家族や親戚をはじめ都市住民が活動に参加し、里山の魅力を体験できる事業を行いながら地域内外の人々と交流を図り、次世代に地域文化の継承を行っています。

また、大淀町役場と連携し「大淀町農村の魅力づくりモデル事業」として農業塾を開催しています。



おおいわ結の里のみなさん

## 里山の魅力を次世代へ継承

同法人では里山を存続していくため、①地域の歴史や文化の継承活動②地域の魅力体験③大岩農産物直売所の運営④地域の健康支援⑤持続可能な地域のコミュニティづくり⑥古民家「おおいわ結の里」の活動⑦里山と人をつなぐ7つの事業を行っています。このうち次の3つの事業で、関係人口創出に関する取組を行っています。



大トンド焼き

### ①地域の歴史や文化の継承活動事業

奈良県指定史跡の石神古墳の草刈りや、伝統行事「大トンド焼き」※を地域外の都市住民、障がい者支援施設なども参加して実施し、文化継承に取り組んでいます。

※日本の冬に行われる伝統的な火祭りであり、大岩の大トンド焼きは1月14日の日没後に点火する。高さ3メートルで恵方にはしめ縄を飾り一年間の五穀豊穡や商売繁盛、無病息災、家内安全を祈る。

### ②地域の魅力体験事業

農業の楽しさや四季折々の里山の暮らしの魅力を感じられる取組として、少人数制の「農業塾」を開催するとともに、関わりづくりのため、じゃがいもや玉ねぎなどの収穫体験も開催しています。また、地場産農産物を使った加工体験（柿の葉寿司作り、つるし柿作りなど）を行い、里山生活を希望する都市住民を呼び込むとともに食文化・技術の伝承を行っています。

### ③大岩農産物直売所の運営事業

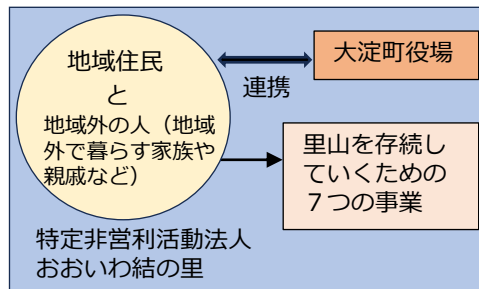
毎週日曜日（冬季休業）の午前中に小さな直売所を運営しており、地域内で採れた農産物を対面販売することで、地域外の人との交流を図っています。



農業塾開校式

## 都市住民との交流の場を広げていきたい

法人化した結果、地域外の人にも大岩地区の取組が見えるようになりました。現在、同法人で活動する正会員数は94名となり、この地域に住んでいる人口を上回っています。これらの取組は、人口が減少していく全国の中山間地域にとっても必要であると考えていることから、我々の活動を幅広く伝えていきたいと思っています。



【問合せ先】 特定非営利活動法人 おおいわ結の里  
理事長 小西正久

<https://www.facebook.com/ohiwa.yuinosato/> (外部リンク)

○ 【令和8年3月16日(月)～3月27日(金)】

奈良市役所 1階「連絡通路」

での展示の様子】

